



公開シンポジウム 「私たちの暮らしと森林・木材の放射能 －森林総研が解き明かすその実態と今後－」

ポイント

- ・ 福島県の森林や林産物に及ぼす放射性セシウムの影響を明らかにします。
- ・ パネルディスカッションでは森林総研の研究者に加え、大学・行政・関連業界と地元福島県の関係者とともに、今後の森林管理や安全性確保等について議論します。

概要

独立行政法人森林総合研究所は、平成25年7月18日（木）に、公開シンポジウム「私たちの暮らしと森林・木材の放射能 －森林総研が解き明かすその実態と今後－」を下記のとおり開催します。多数の皆様のご来聴を歓迎いたします。

記

1. 日 時：平成25年7月18日（木）
2. 場 所：木材会館（東京都江東区新木場一丁目18）
3. 内 容：別紙のとおり
4. 参加費：無料（ただし、事前登録制、先着300名）

問い合わせ先など

独立行政法人 森林総合研究所 理事長 鈴木 和夫
研究推進責任者：森林総合研究所 研究コーディネータ 高橋正通
研究担当者：森林総合研究所 企画部放射性物質影響評価監 赤間亮夫
広報担当者：森林総合研究所 企画部 研究情報科長 秦野恭典
TEL：029-829-8130 FAX：029-873-0844

本資料は、林政記者クラブ、農林記者会、農政クラブ、筑波研究学園都市記者会に配付しています。



背景・経緯

東京電力福島第一原子力発電所の事故による放射能汚染は、森林、林業、木材産業に大きな影響をもたらしました。森林総合研究所では事故以来、さまざまな専門分野の研究者を幅広く結集し、事故の影響解明や対策に関する調査研究に取り組んできました。

これまでも放射能に関わる各種講演会やシンポジウムが行われてきましたが、森林や木材分野全般を扱う会合は少なく、一般の方々がこの分野の研究成果や関連情報に接する機会は限られていました。

このため、森林総合研究所におけるこれまでの研究成果について、一般の方々や関連業界等を対象とした公開シンポジウムを開催することとしました。

内容・意義

(内容)

講演では、木材・きのこなどの林産物や森林生態系を構成する生物に対する放射性セシウムの影響について、最新の成果を研究担当者がわかりやすく紹介します。パネルディスカッションでは、森林総研の研究者に加え、大学・行政・関連業界と地元福島県の関係者を交え、森林の現状を踏まえた今後の森林管理や安全性確保、長期的な観測研究の必要性等を議論します。

(意義)

この公開シンポジウムにより、森林や木材、きのこなどに関わる放射能研究の成果を広く情報提供するとともに、一般の方々、大学、行政部局や関連業界等における放射能汚染の現状認識の共有化に繋がり、連携を強化することにより諸問題の解決に向けた一助になることが期待できます。